

モニタリング計画(案)

札内川技術検討会(第4回 平成24年10月31日)

①ダム放流による川の応答

放流前後

- 1 河道形状の変化（試験施工区など）
- 2 植生（ヤナギ類の実生）の変化（試験施工区）
- 3 河床付着物の変化
- 4 生物への影響把握（礫河原で営巣する鳥類・地上歩行性の昆虫類）

②-1礫河原再生の取り組みを評価（全体調査）

中長期的

- | | | |
|-----|------------------------------------|---------------|
| 環境面 | 1 礫河原や樹木面積の変化（礫河原、水域、樹木） | |
| | 2 植生、植物相の変化（ケシヨウヤナギ群落、樹齢バランス） | |
| | 3 生物の生息状況の変化（礫河原で営巣する鳥類・地上歩行性の昆虫類） | |
| 親水面 | 4 河川利用状況の変化 | 5 ゴミ不法投棄の実態把握 |
| 治水面 | 6 樹林面積の変化を基にした流下能力の把握 | |

②-2礫河原再生の取り組みを評価するためのモニタリング(スポット調査)

代表区間（KP41.0～43.0）を集中的に実施し、中長期的なモニタリングを行う。

放流前後

調査項目	各調査の目的	方法	実施位置	調査年
1 河道形状の変化	・侵食、堆積、樹木群の流出等の形状変化の把握 (礫河原再生の効果)	・試験区を含めた上下流の現地踏査 ・定点写真撮影による河道形状変化の記録 ・航空写真撮影による放流前後の河道形状変化の把握	・全区間 ・試験施工区	H25
2 植生の変化 (ヤナギ類の実生)	・ヤナギ類流出状況の把握 (エゾノキヌヤナギやオノエヤナギ等)	・定着実生数のカウント	・H24試験施工区(継続) ・H25河道整正試験施工区	
	・更新された礫河原へ定着状況の把握 (ケショウヤナギ)			
3 河床付着物の変化	・付着藻類の剥離更新効果 (付着藻類の量)	・河床付着物の採取、分析	・札内橋 ・南帯橋 ・第二大川橋 ・大正橋 ・中島新橋 ・上札内橋	
	・藻類生育環境の変化の把握 (付着藻類の種類)			
4 生物への影響把握	・礫河原等で営巣する鳥類への営巣影響把握 (シギ、チドリ類)	・現地踏査、営巣状況、生息状況の確認	・全体現地踏査後、モニタリング地点を選定(営巣地)	
	・地上歩行性昆虫類への影響把握 (オサムシ類等)	・放流時の冠水状況に応じて生息する昆虫類を把握	・札内橋 ・南帯橋 ・第二大川橋 ・大正橋 ・中島新橋 ・上札内橋	

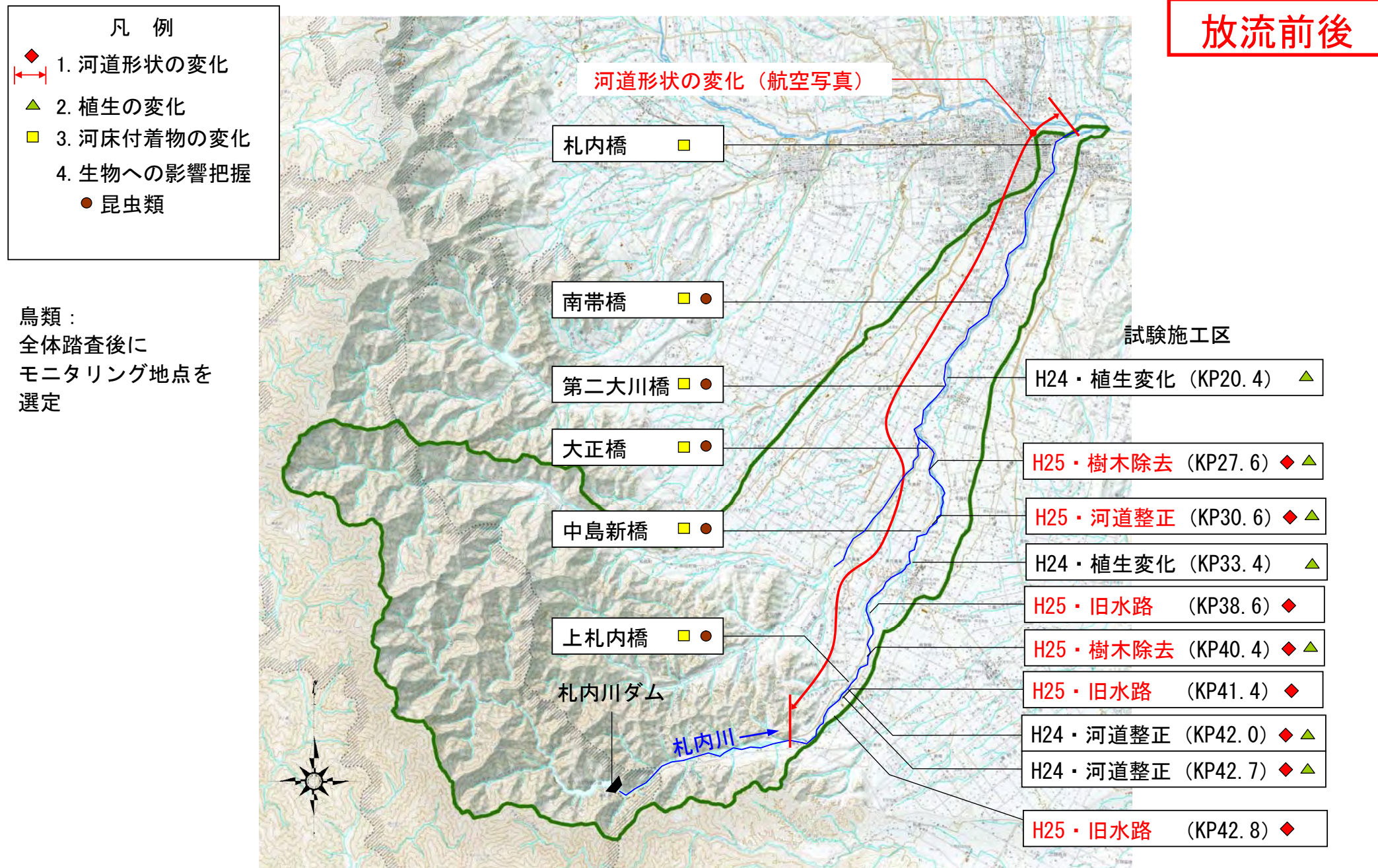


図-1 ダム放流による川の応答のモニタリング位置（案）

◆ 札内川全体を評価するための調査を実施する。

中長期的（全体調査）

調査項目	各調査の目的	方法	実施位置	調査年
1 礫河原や樹木面積の変化 (礫河原、水域、樹木)	・再生した礫河原の維持、樹林化防止の効果の把握	・河川水辺の国勢調査による把握(群落組成調査) ・航空写真判読	・全区間	5年間隔程度 (次回はH26以降)
2 植生、植物相の変化 (ケショウヤナギ群落)	・ケショウヤナギ群落の面積変化 ・樹齢のバランス変化の把握	・河川水辺の国勢調査による把握(群落組成調査) ・樹高、樹齢調査 ・航空写真判読 ・種子のトラップ調査 (種子散布範囲の把握)	・全区間 ・全区間1km毎に調査	
3 生物の生息状況の変化	・これまでの環境情報を継続的に把握 (魚類、底生動物)	・河川水辺の国勢調査による把握	・河川水辺の国勢調査地点 (中札内橋)	5年間隔程度 (H24実施)
	・これまでの環境情報を継続的に把握 (鳥類)		・河川水辺の国勢調査地点 (堤防上1kmごと)	10年間隔程度 (次回はH25以降)
	・これまでの環境情報を継続的に把握 (陸上昆虫類)		・河川水辺の国勢調査地点 (上札内橋)	10年間隔程度 (次回はH25以降)
4 河川利用状況の変化	・取り組み(礫河原再生、地域連携による川づくり)による河川利用状況の変化を把握	・河川水辺の国勢調査による把握(空間利用実態調査)	・河川水辺の国勢調査地点	次回はH26以降
5 ゴミ不法投棄の実態把握	・取り組み(礫河原再生、地域連携による川づくり)による不法投棄量の変化の実態把握	・実績の塵芥処理量を整理	・全区間	毎年整理
6 流下能力の把握	・取り組み(礫河原再生)後の樹木生育状況を基に、流下能力を把握	・水理計算	・全区間	適宜

※「河川水辺の国勢調査」により、中長期的な植生、希少動植物、外来種等の生息・生育状況、繁殖状況の変化を把握

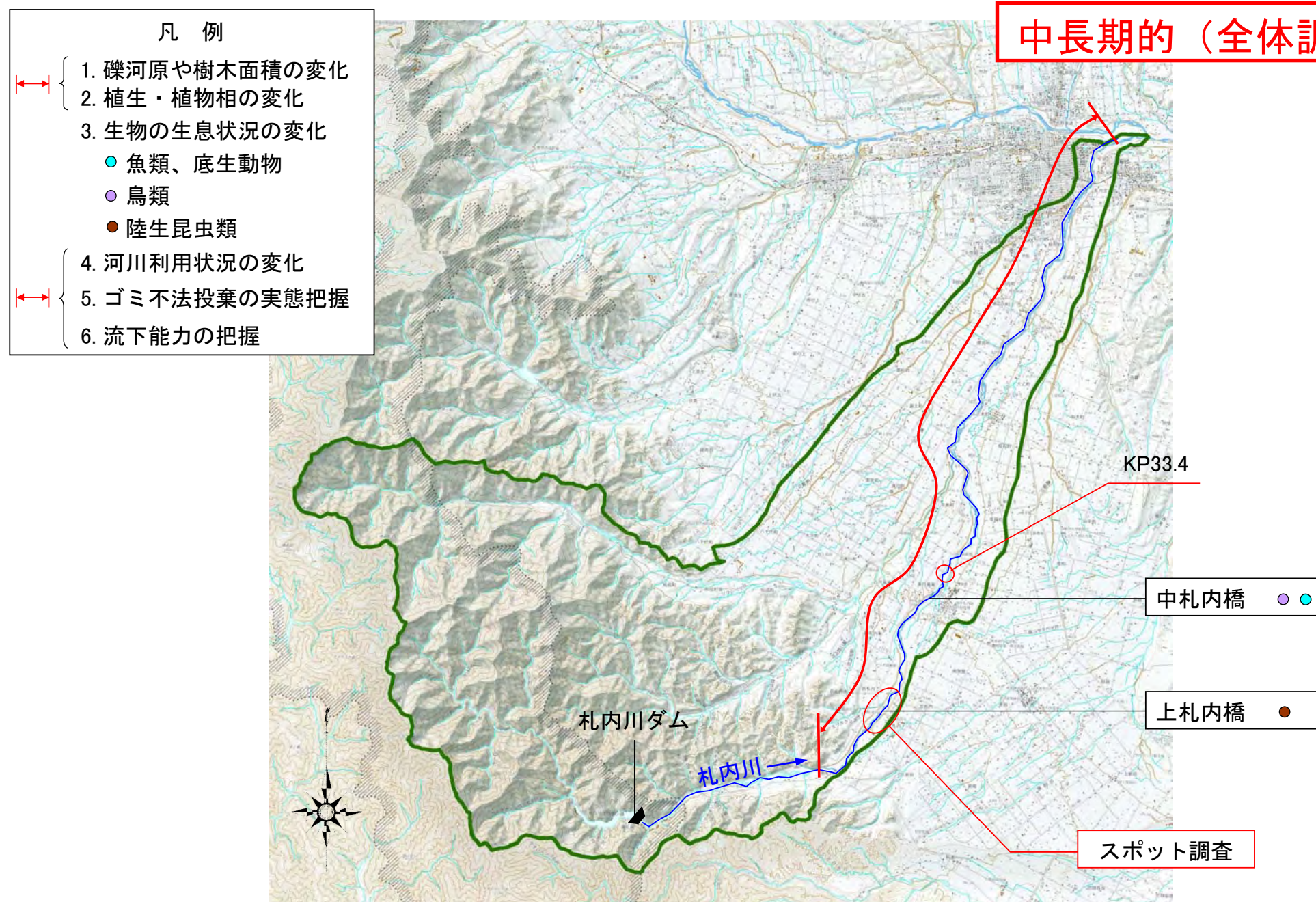


図-2 礫河原再生の取り組みを評価するためのモニタリング位置（案）

中長期的（スポット調査）

◆試験施工区が集中し、水位・流量観測所があるKP41.0～43.0を対象として中長期的に調査を実施する。

調査項目	各調査の目的	方法	調査年
1 河道形状の変化	・侵食、堆積、樹木群の流出等の形状変化の把握 (礫河原再生の効果)	・試験区を含めた上下流の現地踏査 ・定点写真撮影による河道形状変化の記録 ・航空写真撮影による放流前後の 河道形状変化の把握	1～2年 間隔
2 植生の変化 (ヤナギ類の実生)	・ヤナギ類流出状況の把握 (エゾノキヌヤナギやオノエヤナギ等)	・定着実生数のカウント ・群落組成調査 ・樹高、樹齢調査 ・KP33.4試験施工区での継続実施	
	・更新された礫河原へ定着状況の把握 (ケショウヤナギ)		
	・植生群落の面積変化、樹齢バランスの把握		
3 河床付着物の変化	・付着藻類の剥離更新効果	・河床付着物の採取、分析	
	・藻類生育環境の変化の把握		
4 生物への影響把握	・礫河原等で営巣する鳥類への営巣影響把握 (シギ、チドリ類)	・河川水辺の国勢調査に基づく調査 (スポットセンサス法) ・現地踏査、営巣状況確認	
	・地上歩行性昆虫類への影響把握 (オサムシ類等)	・河川水辺の国勢調査に基づく調査 (ピットフォールトラップ法)	

1. ②-2礫河原再生の取り組みを評価するためのモニタリング (2/2)

p. 7

